6-31　実践協力校における実践
事例㉛　海老名市立社家小学校（６年生・総合的な学習の時間）
「トマトの魅力を広げよう」

Ⅲ　取組の様子２（海老名市立社家小学校・６年生　総合的な学習の時間）

①　単元計画

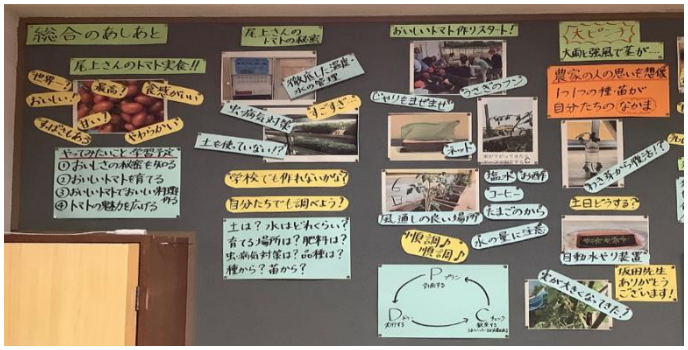
１．単元名　「トマトの魅力を広げよう」

２．単元の目標

地域で生産が盛んな農作物であるトマトの栽培や調理、販売に力を注ぐ様々な職種の方と関わる活動を通して、支えている人の思いや願い、トマトの魅力に気づき、地域産業や食文化の継承を願って自分にできることを考え、他者意識をもって協働しながら、地域にトマトの魅力を広げていけるようにする。

ポイントになる主な学びのプロセス　→　**他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する**

３．指導計画（総合 60 時間扱い）※総合に加えて、国語科でも 10 時間扱いの学習を関連付けている

	目指す姿（☆）・ねらい（◇）・おもな学習内容（◆）
1	**小単元①「おいしいトマトの秘密を探ろう」** ☆おいしさの理由を自分で追いかけて見つけようとする姿 ◇地域のトマトを実際に食べ、気付いたことや疑問を出し合いながら、おいしいトマトの秘密について考える。 【情報の収集】 ◆農家の人の話や資料などで、栽培の工夫、こだわり、苦労を知る。 ◆トマトの育ち方、品種、旬、甘くなる条件などを調べる。 ◆自分が気になったことに応じて、課題解決に生かせそうな材料を集める。 【整理・分析】 ◆集めた情報を比べながら、おいしさの秘密を整理する。（育て方・品種・環境・農家の工夫など） ◆なぜその工夫がおいしさにつながるのか、図や表にして分析する。 【まとめ・表現】 ◆トマトの魅力を広げる第一歩として誰に伝えるか、目的を決めて表現を工夫する。
2	**小単元②「おいしいトマトを育てよう」** ☆根拠や理由をもって、よりよい育て方を自分で選び出せる姿 ◇前次に学習したことを生かして、自分たちでもおいしいトマトを育てる方法を考える。 【情報収集】 ◆栽培の基本（土の状態・水やり・日当たりなど）や条件（温度・肥料・手入れなど）を調べる。 【整理・分析】 ◆集めた情報をもとに、予測をしながら育て方の案を話し合い、試してみたい工夫を決めて、計画を立てる。 【まとめ・表現】 ◆グループごとに栽培計画を表や図でまとめ、他のグループと共有し、計画を見直したり、改善したりする。 ◆「私たちの育て方の工夫」をまとめる。 

3	**小単元③「新鮮さを活かした料理を作ろう」** ☆新鮮さをどう活かすか、根拠や理由を伴った判断をする姿 ◇自分たちで育てた新鮮なトマトを食べ、どんな料理が合うか、新鮮さを活かす方法はあるのかなどを話し合い、料理を考える。 【情報収集】 ◆給食のレシピを調べたり、栄養士の方の話を聞いたりし、新鮮さを活かす料理の条件を学ぶ。（酸味・甘味・彩り・食感など） ◆スープ・サラダ・パスタなど作りたいジャンルごとに情報を集める。 【整理・分析】 ◆使う食材や調味料、調理方法に、根拠や理由をもたせ、整理・検討をする。 【まとめ・表現】 ◆なぜ新鮮さを活かせるのか、根拠や理由を明確にして提案する文章にまとめ、発表し合う。
4	**小単元④「給食のメニューを開発しよう」** ☆地域や給食に関わる人の思いをくみ取り、これまでの学習を基に、目的に沿ったメニューを選ぶ姿 ◇これまでに学習したことを振り返り、たくさんの人にトマトの魅力を伝えるために給食のメニューを考える。 【情報収集】 ◆メニュー開発に生かすために、トマトの好きなところと苦手なところのアンケート調査を行う。 ◆栄養士から、給食のメニューの条件を学ぶ。（栄養・アレルギー・調理のしやすさなど） ◆給食でよく使われる味付けや食材の組み合わせを調べたり、参考になるレシピやアイデアを集めたりする。 ◆地域の料理店の料理人の方からアドバイスをもらう。 【整理・分析】 ◆アンケートの結果から、メニューに取り入れるトマトの魅力を明らかにし、苦手な人でも食べられる工夫を考える。 ◆根拠や理由を伴った自分の考えをもち、話し合いを繰り返す。 【まとめ・表現】 ◆見やすさ・わかりやすさ・アピールポイントなどを意識し、企画書やプレゼン資料としてまとめる。 ◆まとめた内容を栄養士にわかりやすく伝える。 
5	**小単元⑤「地域にトマトの魅力を宣伝しよう」** ☆相手の思いを想像して、伝え方を考えられる姿 ◇地域の小学生以外の誰に魅力を発信するか考え、伝える方法について話し合い、トマトの魅力を宣伝する。 【情報収集】 ◆発信する相手を意識して、相手が何に困っているか、どんな生活をしているか、トマトの何が響きそうか、インタビューや現地調査を中心に情報を集める。 【整理・分析】
本時	◆誰に魅力を伝えるのが適切なのか、これまでの学習や経験を生かして考える。
	◆発信する相手を意識しながら、どのようなトマトの魅力を、どうやって伝えるか整理する。 【まとめ・表現】 ◆発信する相手のニーズを意識して、ポスターやレシピカードなどで表現する。

ポイント1

合意形成を目指すプロセスと自身の考えを見つめ直す機会の積み重ね

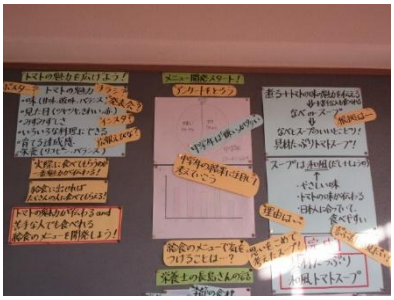
総合的な学習の時間における実践として、各小単元において見出した課題解決に向けて合意形成を目指すプロセスが繰り返されています。単なる意見の一致を目指すのではなく、子どもたちが主体的に納得解に至る過程に重きを置くことが大切です。自身の考えを明確にした上で、他者の意見と比較しながら自身の考えを見つめ直す授業展開がポイントです。

② 本時の様子

1．本時の目標

トマトのおいしさの魅力を誰に伝えるかについて、これまでの学習や経験から得た気付きや友達の気付きを基に意見を比較しながら、より適切な相手は誰なのか考えを深めることができる。

2．本時の展開

過程	活動の流れ	ポイントになる学びのプロセス
導入	○これまでの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。  先生 これまでのインタビューやアンケート結果を基にしながら、トマトの魅力を誰に伝えるか話し合いましょう。 トマトのおいしさの魅力を誰に伝えるか、意見を絞っていこう。	
展開①	○友だちの考えに対する自分の意見を伝え合う。  おいしさの魅力を伝えるなら、大人に伝える方がいいと思う。  トマトが苦手な大人はもう挑戦しないんじゃない？  中高生はSNSで広げてくれそう。  中高生は忙しいから、魅力を知っても広げる行動までしてくれないかも。  小学生同士ならば同じ目線だから、魅力がよく伝わると思う。  小学生には給食の和風スープ（考案メニュー）で魅力を伝える予定だから、別で伝えなくてもいいんじゃない？  生産者で授業協力者の●●さんに伝えるのは、どう？	 **【他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する①】** ・全員の意見を大切に扱い、話し合いの土台とすることで、クラスの納得感を高めたり、話し合いがより深まったりすることを目指した。 ・事前に友達の意見に対する自分の考えをまとめておく機会を設定したことで、自分の考えと比較し、発言しやすくすることをねらった。

●●さんは、おいしさの魅力はもう理解していると思うから、魅力を広げる目的からは逸れている気がする。

トマトが苦手な人に伝えるのはどう？

賛成。苦手な人にこそ、伝える価値があると思う。

展開②

○これまでの学習を思い出したり、相手の立場に立って考えたりしながら話し合いを進め、魅力を伝える相手を絞る。

・伝えたい相手がたくさん挙がったね。
・「直接伝えたい相手」と、「広げてもらうための相手」に分かれているけど、どちらが目的に沿っているかな。

先生

「伝わる」ってどういうことかな。「知る」ってこと？

「伝わる」は、理解したり納得したりするイメージかな。

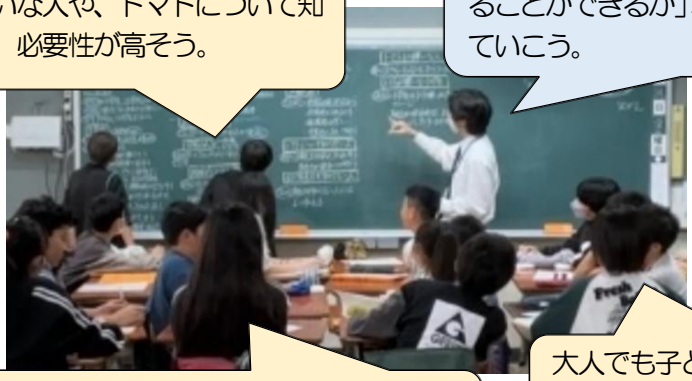
「知る」だけでは苦手な人は食べてみようとならないかも。

たしかに。無理に広げることを考えるより、「直接伝えたい相手」で考えていこう。

いいね。誰かに魅力を伝えてもらうよりも、自分たちで直接伝えた方が、魅力が伝わりそうだし。

「伝える必要性は高いか」、「自分たちが伝えることができるか」などの視点で、さらに絞っていこう。

トマトが嫌いな人や、トマトについて知りたい人は、必要性が高そう。



大人でも子どもでも、身近な人でないと直接伝えられないね。

トマトを嫌いな人に伝えるのは、相手の立場に立って考えるとやめたほうがいいかも。

目指す子どもの姿

他者の考えを受け止めて聞き、自分の考えと比べてよく考えることで、自分の意見が変わったり、より確かなものになったりしている。

【他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する②】

・これまでの学習から、子どもの意見を問い返すことで、自分の考えを見直すきっかけをつくる。

・考える視点を提示し、話し合いを焦点化する。

まとめ	○みんなの考えを聞いて思ったこと、考えたことを基に今日の学習の振り返りを書く。 しっかり伝えるためには、相手を限定していくことも必要だと学んだ。 相手の立場に立って考えると、トマトが嫌いな人に伝えるのは、やめたほうがいいと考えが変わった。  誰かに頼むのではなく、自分たちで魅力を広げていきたいと思った。 トマトについて知りたい人や、まだ魅力を知らない人は、積極的に話を聞いてくれると思った。	**【他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する③】** 誰に知らせると目的が達成されるかを考えられるよう、振り返りを共有し、いろいろな視点から自分の考えを見つめ直すことができるようにした。

ポイント2

根拠や理由を伴った自分の考え、他者の考えとの比較をとおした考えの再構築

・話し合いを行う上で、根拠や理由をもつことができるよう意識して指導しています。その有無は、課題意識をどれだけ自分事として捉えているかが直結します。説得力の度合いも大きく変わることからも、大切な視点です。
・考えの再構築の質を高めるために、多様な考えをもつ他者と意見交換を行いながら、常に自分の考えと照らし、活動の目的に沿った判断ができるよう支援していきましょう。

③　研究協議

1．研究協議のテーマ
「様々な考えから、自分の考えの再構築へと向かっている子どもの姿～『人』とのどんな関わりに起因していたか。」
2．成果と課題、参観者の意見

成果

・課題が自分事になっており、自身や他者の実生活をとおした意見の交流により、考えの再構築へとつながっていた。
・学習の足跡を振り返ることができる掲示物により、話題に上がっている内容とこれまでの学習の流れを比較しながら、考えを再構築する姿が見られた。
・様々な考えとの比較・検討をとおして、個々で考えの再構築に至っていた姿が発言や振り返りの入力内容から見られた。

課題

・本学習の目的に立ち返り、学級として伝えたい「トマトの魅力」を再確認しながら伝える相手を選定していくと、合意形成がより進んだと考えられる。
・途中で、個々の考えの再構築に至った意見を共有することで、学級としての合意形成に迫れたと思う。
・「政治的参加の有効性（自分の声が届いたという有用感）」を実感させるため、頻繁に行ったペアトークで話された個々の意見をどのように全体の場で取り上げ、反映していくかを考える必要がある。

④　事後の取組

伝える相手を意識した、効果的な伝え方の探究

誰に伝えるかについて引き続き話し合った結果、「トマトについて知りたい人」や「まだ魅力を知らない人」に伝えることになった。伝える方法については、プレゼンテーションアプリを用いた発表に決定した。決定までのプロセスにおいて、トマトを直接食べる以上に魅力が伝わる発表にすることを目標とした。そのため、プレゼンテーションの内容だ

けでなく、伝え方の工夫についても協議を行った。劇にする案や歌を作る案が出ている。この学習の目的や魅力を伝える相手として選んだ理由を軸にしながら、プレゼンテーションの在り方を探っていく。また、『食の創造館』に提案していた「具材たっぷり和風トマトスープ」が給食のメニューとして採用されているため、より魅力が伝わるように、校内放送でメニューやトマトの魅力について詳しく説明するなどの方法も併せて考えていく。



伝える方法っていろいろありそうだけど、どれがいいんだろう。ポスター、チラシ、回覧板、プレゼンとか？

ポスターとかチラシってほんとに伝わるのかな？みんなちゃんと見てくれるかな？見てくれたとしても、「知る」や「わかる」で終わっちゃう気がする。「伝える」って難しいな。





考えたメニューをお店で提供してもらえれば、食べることで、魅力を体感してもらえるのに。



プレゼンなら伝わるかな？お店での提供は実現できなかったけど、直接食べるよりも効果があるプレゼンにしたいな！内容が重要だよ！

伝え方も大事だよね。詳しく説明するだけよりも、劇をベースにしたり、歌を入れたりするのはどうかな？



おもしろそう！どの年代でも関心をもって聞いてもらえそうだし、より伝わる気がする！

